さいたま市公民館運営審議会第６回会議　議事録

１　開催日時

令和７年５月 13 日（火）　10 時 00 分から 11 時 30 分まで

２　開催場所

生涯学習総合センター　10 階　多目的ホール

３　出席者

〈委員：11 名〉

① 加藤　美幸　委員長
② 磯田　三津子　副委員長
③ 太田　祐子　委員
④ 大塚　晶子　委員
⑤ 小森谷　由紀江　委員
⑥ 佐藤　一子　委員
⑦ 島田　正次　委員
⑧ 白石　徳一郎　委員
⑨ 富田　敏弘　委員
⑩ 西形　恵美子　委員
⑪ 山口　哲生　委員

〈拠点公民館職員：10 名〉

①	西　区	指扇公民館長	菅野　剛史
②	北　区	大砂土公民館長補佐	三城　庄司
③	大宮区	桜木公民館長	細井　規夫
④	見沼区	大砂土東公民館長	茂木　深雪
⑤	中央区	鈴谷公民館長	貫井　直美
⑥	桜　区	田島公民館長	舟腰　祐子
⑦	浦和区	岸町公民館長	河原塚　政行
⑧	南　区	文蔵公民館長	桑原　健司
⑨	緑　区	大古里公民館長	酒井　浩志
⑩	岩槻区	岩槻本丸公民館長	石関　達

〈事務局：８名〉

生涯学習総合センター

①	館長	杉本　達洋
②	副館長	大城　冬樹
③	主幹兼事業・企画係長	山田　浩行
④	事業・企画係主査	蜂谷　香織

⑤ 事業・企画係主査　　三好　七月
⑥ 事業・企画係主事　　小暮　裕貴
⑦ 事業・企画係社会教育指導員　成尾　千里
⑧ 事業・企画係社会教育指導員　田山　基子

4　欠席者
〈委員：１名〉
① 小林　玲子　委員

5　事務局からの報告、説明等
・前回会議録について

6　配布資料
（１）　さいたま市公民館運営審議会第６回会議 次第
（２）　さいたま市公民館運営審議会第６回会議 席次表
（３）　さいたま市公民館運営審議会第５回会議 議事録
（４）　さいたま市公民館ビジョンに基づく取組の評価について（案）
（５）　公民館ビジョン取組評価シート（別紙１）
（６）　公民館ビジョン取組評価（別紙２）
（７）　令和６年度　公民館ビジョン取組実績報告書兼推薦書【Ａグループ】【Ｂグループ】

7　公開・非公開の別
公開

8　傍聴者の数
０名

9　会議
委員の半数以上が出席しているため成立

10　内容
・冒頭、事務局より、４月の人事異動で拠点公民館長に着任した館長及び事務局職員の紹介を行った。
・前回会議録について報告を行った。

議題１　「公民館ビジョンに基づく取組の評価について」

・資料「さいたま市公民館ビジョンに基づく取組の評価について（案）」に沿って事務局から説明を行った後、評価の方法や着眼点について議論を行った。

白石委員	説明内容について３点伺う。 １点目、毎年評価する館を選ぶのか。あるいは10年、20年の計画の中で輪番として行うのか。 ２点目、「公民館ビジョン取組実績報告書兼推薦書（以下、取組実績報告書）」は毎年全館が提出するものなのか。今回だけのものなのか。 ３点目、各館の報告書は、委員だけが共有しているのか。すべての公民館が閲覧できるのか。
事務局	１点目については毎年度行うことを想定している。 ２点目については毎年度全公民館が作成している。また、今回の評価とは別件で、この取組実績報告書をもとに公民館内で評価を行い、優良公民館表彰を実施している。 ３点目について、取組実績報告書は取りまとめをして、全公民館で共有するとともにホームページにも掲載して周知を行っている。
加藤委員長	時間配分について、プレゼンテーションは10分でよいと思うが、委員による協議が10分では足りないのではないか。
島田委員	10分でまとめるのは難しいと思う。15分程度あるとよいのではないか。
白石委員	時間配分はどういう館を選ぶかによって変わると思う。良いところを見つける議論であれば短くなると思うが、課題点について解決策を見つけようという話になると時間が足りなくなるのではないか。
太田委員	評価コメントの記入も５分では短いと思う。
事務局	適正な時間配分となるよう検討してまいりたい。
佐藤委員	評価対象の49館全部を評価するという想定に至っていないが、評価対象が限定されるということになってよいのか。また、私たちの興味だけで選んでよいのか。問題点や課題を一緒に考えるような想定で選ぶなど、バランスを検討する必要があると思う。
事務局	事務局内でも、委員の任期中にこの館数だけでよいのかという検討を行った。本来であれば全館を評価していただくのが一番の形だと考えているが、今回はこの形でスタートして、今後、検討を重ねブラッシュアップしていければと考えている。
加藤委員長	様々な課題や問題に対しての解決策を考えるような評価の仕方もあると思う。
佐藤委員	例えば、防災学習のような施策が機能しているかどうかを優先的な課題にする、高齢者中心で若者がほとんど参加できていないというような地域の特性に課題意識を向けるなど、公民館の実態からどのような課題を見出していくのかという道筋は区・館ごとに考えがあると思うので、私たちが興味で選ぶものとその両方のバランスが大事だと思う。

山口委員	ユニークな取り組みを行っている公民館を「イイね！」で評価して、他の館にも伝播していきたいと考えている。拠点公民館長にぜひ評価してもらいたいという館を推薦してもらい、よりよくなるよう建設的な意見を出したい。
白石委員	評価の実施に当たって評価規準があるとよい。例えば、内容が良く、参加率が高いなどすぐに定員に達するような人気のある講座はうまくいっている事例になるので、参加数や定員に対する参加率などが評価規準になると思う。
小森谷委員	評価の規準は、公民館ビジョンの核となっている「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」の３つの柱に沿った良い取組をしているという視点がよい。
佐藤委員	ゼネラルなレベルの評価と、ユニークあるいは課題への取組の評価と２通り想定できる。例えば、「つながりづくり」でも、障害者や外国人のような特定の対象にポイントを絞った取組によってつながりができたとき、それが多数の取組ではなくても、小さいけれど価値がある取組である。
加藤委員長	人数ばかりを追ってしまうと、人が集まるような事業に偏ってしまう。地域の課題を解決するようなチャレンジングな取組も取り上げられるとよい。
白石委員	評価規準はどのような視点で評価するのかというもので、ＡＢＣ評価をするための評価基準ではない。評価対象館の選定については、区ごとにどういう視点で推薦したのかを示していただき、代表館の選定の際にも色々な見方で評価ができるのではないかと思うので、評価規準を示していただけるといいと思う。「地域づくり」と言っても都市部と郊外では別の地域課題があるので、地域独自の多様な視点を踏まえた評価規準が必要である。
加藤委員長	「公民館ビジョン取組評価シート（以下、取組評価シート）」の様式に「取組のイイね！ポイント」という欄があるので、そこに１つの決まった規準だけではなく、評価のポイントとなるものを入れるとよいと思う。
佐藤委員	地域独自の課題をきちんと見据えて、問題提起につなげていくことを期待したい。市民が関心を持って取り組める方向性を持たせることが、公民館の果たす役割につながっていく。
加藤委員長	「人づくり」や「つながりづくり」は、最終的には「地域づくり」につながるものなので、まず１回目は「地域づくり」をテーマにした館を選んでもよいと思う。
磯田副委員長	地域の課題や特徴は資料だけでは見えないものがある。拠点公民館長が聞き取りをしながら、多様な角度で選んでいただけるとよいと思う。
島田委員	「地域づくり」なら「地域づくり」とピンポイントで決めた方がよいのではないか。その中で問題や課題を抱える公民館を選び、委員が議論して解決に向けていく方が今後の事業の成果につながる。
太田委員	取組実績報告書は、いつ提出され、評価するのはいつ頃なのか。提出と同時期に翌年度の方向性が決まってしまうのでは、その時点で評価をしても翌年度に生かされないのではないか。
事務局	取組実績報告書は、年度末に各館でまとめているため、評価の内容は反映が可能だと考えられる。また、今回の評価については７月にプレゼンテーショ

	ンを予定している。

議題２「評価対象公民館の選定について」

事務局	選定方法について、拠点公民館長からの推薦というご意見をいただいたが、そのような方式でよろしいか。
山口委員	その方式がよいと思う。ぜひみんなに聞いてもらいたいという意欲のある館を選んでほしい。あるいは、必死に取り組んでいるがなかなか結果が出ないので委員のアドバイスがほしいというようなスタンスで臨んでほしい。
加藤委員長	区ごとに１館推薦してもらい、取組実績報告書を見て委員が決めるというのがよいと思う。公民館ビジョンを推進し具現化しているという視点で拠点公民館長に推薦していただけると、委員も選びやすいと思う。
大塚委員	パワーポイントのフォーマットを決めて、発表のパターンを統一すればプレゼンをしやすいのではないか。
事務局	具体的な方法として、各区から推薦された１０館を委員にメールで報告し、各委員が上位２館を選ぶという形はどうか。
加藤委員長	本来は話し合って決めた方がよいが、スケジュールの問題もあるため今回は、各区で選んだ館を事務局からメールで委員に報告してもらい、各委員が２館を選ぶ。そして、事務局でその数を集計して上位２館を選出するという形とする。次回からは委員で話し合って決める形になるかと思うが、とりあえず１回やってみるということが大事だと思う。
事務局	地域課題の解決というのは、今後、やり続けなければいけないものだと考えているが、今回の取組実績報告書を見ると、「地域づくり」と書かれているものが少ないのが現状である。例えば、「つながりづくり」であっても、地域課題の解決に資するような内容のものという視点で検討し、それを拠点公民館長に共有して、その中で１館を推薦するという形にさせていただければと思う。
山口委員	先ほど話のあった優良公民館について、優良公民館表彰の評価と今回の評価とが重なるのではないか。それとも違うものなのか。簡潔に教えてほしい。
事務局	優良公民館表彰については、選ばれた館の取組を他の公民館が参考のため共有することを行うが、今回審議会で行う評価は、PDCAサイクル（Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Action（改善））のCの部分にあたり、さらにその評価を基にどう改善につなげていくかという視点が基礎になるものと考えている。
加藤委員長	優良公民館表彰の評価と同じになることもあれば、そうでない場合もある。審議会の独自性を生かしてやっていけばよいと思う。
事務局	評価の進め方は、「さいたま市公民館ビジョンに基づく取組の評価について（案）」に基づいてということでよいか。
加藤委員長	よいと思う。 評価の進め方についてまとめると、取組評価シートは、委員それぞれが書

	く。「担当者からのＰＲ、相談等」はプレゼンテーションを見て記入するのは難しいので、担当者が書く。「取組のイイね！ポイント」はよいと思う観点を挙げる。「取組へのアドバイス」は改善に向けたアドバイスを記入する。「公民館職員へのメッセージ」は、応援メッセージを記入する。 そして「公民館ビジョン取組評価」は、グループでまとめる。各委員が取組評価シートをもとに発表。「取組へのイイね！」には委員から出た「イイね！」を記入。「皆で生かせるポイント！」は「取り組みのイイね！ポイント」や「取組へのアドバイス」を参考にまとめる。「１upへの道」は「取組へのアドバイス」からステップアップを視点にまとめる。「拠点公民館長コメント」は、例えば、中央区の公民館が選ばれたら、中央区の拠点公民館長が記入する。 この方法で行ってみて、書きにくいところなどがあれば、よりよいものに改善していく。
事務局	「担当者からのＰＲ、相談等」については、公民館で記入した方がよいか。
加藤委員長	事前に公民館で記入していただいた方が委員にも分かりやすくシートも記入しやすくてよい。

11　その他

次回の開催日時については委員長・副委員長と協議の上、後日通知すること、会場は生涯学習総合センター10 階多目的ホールで開催予定であることを報告した。

12　閉会